

どさん子ラウンド報告書

【令和5年9月16日（土） 北海道教育大学札幌駅前サテライト】



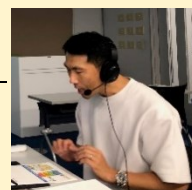
今年はまだまだ夏を感じる北海道で、対面とZoomを用いたハイブリッド形式で行いました。対面では12名、オンラインでは10名、計22名の参加があり、北海道はもとより、日本の体育・保健体育の発展・充実に向けて、熱い研究会が開催されました。



1 情報提供「北海道の体育科・保健体育科の授業改善に向けた取組について」 【北海道教育庁健康・体育課 主任指導主事 田中 貴博】

令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の北海道の調査結果を基に課題と取組について情報提供いただきました。

児童生徒質問紙調査の授業改善に関わる調査項目の結果において、全国平均等と比較して、体育・保健体育授業の中で「できる」「わかる」を実感している児童生徒の割合が少ないことを課題と捉え、その改善に向けて、体育専科教員等における授業実践をモデルとして動画で紹介したり、小学校体育専科教員等が講師となった学校訪問を実施したりすることにより、教師の効果的・計画的・系統的な指導を充実させることなどの取組が紹介されました。



2 実践発表【岩見沢市立南小学校教諭（体育専科教員） 下野里 紗】 【池田町立池田中学校教諭（中学校授業実践スペシャリスト） 澤辺 渉】

下野先生からは、器械運動やボール運動の領域で、行い方を繰り返し確認したり、動画や振り返りを共有したりするなど単元を通じたICTを活用した実践例を発表いただきました。

澤辺先生からは、ダンスや球技の領域で自分の課題に取り組むためのICTを活用した実践例や卓球のゲームでサーブやスマッシュのデータをICTの活用により分析した内容を伝え合う実践例を基に、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた実践発表をいただきました。

その後、お二人の発表を基に3～4人の小グループで意見交換を行い、それぞれの立場から疑問点等について活発な意見が出されました。



3 ワークショップ【桐蔭横浜大学教授 佐藤 豊】

桐蔭横浜大学の佐藤教授から、個別最適な学びと協働的な学びの捉え方についての説明がありました。

重要なのは、先生方が言葉に踊らされることなく、資質・能力を身に付けるための活動とすることを理解することで、そのことが体育・保健体育の将来を作っていくことにつながる旨をお話いただきました。

その後、3～4人のグループに分かれ、小学校高学年又は中学校のゴール型の単元を題材に、「思考力、判断力、表現力」を育成するためのICT活用に係るアイデアを話し合いました。



■ 講師の先生方や実践発表いただいた先生方をはじめ、御参加いただいた皆様に感謝申し上げます。